

# 2017年度 卒業生アンケート調査結果

FD委員会/IRセンター

## 【Ⅰ. 調査の概要】

1. 調査対象 2014年度から2016年度の間に東北福祉大学を卒業した通学の正科生
2. 調査期間および方法 2017年8月上旬～9月上旬に実施。東北福祉大学の同窓会ホームページ等で調査への協力の呼びかけを行った上で、Googleのサービスを利用してインターネット上でアンケートの回答を行ってもらった。
3. 回答人数 71名から回答が得られた。

## 【Ⅱ. 結果】

### 1. 回答者の基本属性

#### 1) 回答者の性別と年代など

回答者の性別と年代、入学の際の入試形態と卒業時の所属学科を表1～4に示した。性別に関しては女性の回答者が多かった。また卒業後年数に関しては昨年度卒業の回答者が、所属学科は保健看護学科が最も多かった。

表1 性別

	度数	%
男	10	14.1
女	61	85.9
合計	71	100.0

表2 入学年度

	度数	%
2009年度以前	1	1.4
2010年度	1	1.4
2011年度	10	14.1
2012年度	17	23.9
2013年度	42	59.2
合計	71	100.0

表3 卒業後年数

	度数	%
1年未満	45	63.4
1年以上2年未満	15	21.1
2年以上	11	15.5
合計	67	100.0

表4 卒業時の所属学科

	度数	%
社会福祉学科	3	4.2
社会教育学科	8	11.3
福祉心理学科	1	1.4
産業福祉学科・産業福祉マネジメント学科	5	7.0
情報福祉学科・情報福祉マネジメント学科	5	7.0
子ども教育学科	10	14.1
保健看護学科	28	39.4
リハビリテーション学科	8	11.3
医療経営管理学科	3	4.2
合計	71	100.0

## 2) 回答者の現在の職業など

現在の職業等に関する回答を表5に、さらに、「社会福祉施設」と回答した者についてはその施設の種類を表6に示した。現在の職業等については、「保健医療」と回答した者が最も多かった。これは今回の調査協力者の約4割が保健看護学科を卒業していることと関連していると考えられる。

表5 現在の職業等

	度数	%
社会福祉施設	5	7.0
公務員・団体	13	18.3
企業	8	11.3
保健医療	28	39.4
教員	7	9.9
学校等在学中	4	5.6
その他	6	8.4
合計	71	100.0

表6 「社会福祉施設」と回答した者の職種

	度数	%
老人福祉(保健)施設	3	4.2
保育所／保育園	1	1.4
保育所／保育園以外の児童福祉施設	1	1.4
合計	5	100.0

表7 「企業」と回答した者の職種

	度数	%
営業職	4	5.6
販売職	3	4.2
技術職	2	2.8
事務職	2	2.8
その他	1	1.4

(複数回答あり)

表8 就業中の回答者の雇用形態

	度数	%
正規	56	78.9
非正規	8	11.3
無回答	7	9.9
合計	71	100.0

表9 離職回数

	度数	%
なし	59	83.1
1回	6	8.5
3回以上	1	1.4
無回答	6	8.5
合計	67	100.0

## 3) 現在の仕事の充実度

今回の調査では、現在就業している方を対象に、「現在の仕事についてどの程度充実感を感じながら働いているか」について「1.まったく充実感を感じていない」～「4.とても充実感を感じている」の4件法で尋ねた。その回答結果を表10に示す。「やや感じている」「とてもかんでいる」のいずれかに回答した者が70%以上を占める結果であった。

表10 現在の仕事の充実感

	度数	%
1.まったく感じていない	2	3
2.あまり感じていない	13	19.7
3.やや感じている	29	43.9
4.とても感じている	22	33.3
合計	66	100.0

平均:3.08 標準偏差:0.81

## 2. 回答者の在学中の学びや経験

### 1) 在学中の経験

在学中の経験について、「アルバイト」「在学中の資格取得」の経験があるものが80%以上であったのに対し、「体育会へ団体への所属」「海外留学・研修」「国内での国際交流」を経験した者が比較的少なかった。

表 11 在学中の経験

経験あり	度数	%
体育会の団体への所属	3	4.2
文化会・同好会・大学指定の団体への所属	44	62.0
ボランティア活動	49	69.0
海外留学・研修	7	9.9
国内での国際交流	6	8.5
インターンシップ	17	23.9
アルバイト	61	85.9
「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」のいずれかの履修	21	29.6
学外実習	41	57.7
在学中の資格取得	57	80.3

## 3. 在学中の学びの満足度・成果

在学中の満足度・成果に関する項目の回答結果を表 12～14 に示した。どの項目においても3か4と回答している者が全体の70%以上であり、在学中の学びについて肯定的な評価がなされていると考えられる。

表 12 東北福祉大学で学んだことについてどの程度満足ですか？

	度数	%
1. まったく満足していない	0	0.0
2. あまり満足していない	6	8.5
3. 少し満足	32	45.1
4. とても満足	33	46.5
合計	71	100.0

平均:3.38 標準偏差:0.64

表 13 在学中の学びと経験を通してどの程度成長したと思いますか？

	度数	%
1. まったく成長していない	0	0.0
2. あまり成長していない	7	9.9
3. 少し成長した	36	50.7
4. とても成長した	28	39.4
合計	71	100.0

平均:3.30 標準偏差:0.64

表 14 本学のキャリア教育の目標<sup>1)</sup>がどの程度身に付いたと思いますか？

	度数	%
1. まったくそう思わない	0	0.0
2. あまりそう思わない	13	18.3
3. ややそう思う	42	59.2
4. 非常にそう思う	16	22.5
合計	71	100.0

平均:3.04 標準偏差:0.64

<sup>1)</sup>「自らかかわる(主体性)、自ら考える・気づく(課題発見能力など)、自らアクションを起こす(実行力)」

### 〈調査時の仕事の充実感との関連〉

「在学中の学び・成果」と「調査時の仕事の充実感」との関連を検討するために、各評定値について相関分析を行った。表 15 にそれぞれの相関係数（-1～1 の値で-1 や 1 に値が近いほどデータ上の強い関連を示す値）の値を示した。その結果、すべての組み合わせで統計的に有意な相関が明らかとなった。在学中の学びに対する満足度が高いほど、また、在学中の学びや経験を通して成長を感じているほど、調査時の仕事に対する充実感が高い傾向にあることが明らかとなった。

表 15 「在学中の学び・成果」と「調査時の大学に対する評価との関連」

	大学での学びに対する満足度	在学中の学びや経験を通じた成長	キャリア教育の修得度
調査時の仕事の充実感	.39**	.43**	.36**

\*\*: $p < .01$  \*: $p < .05$

## 4. 回答者の調査時の大学に対する評価について

回答者の調査時の大学に対する評価に関する項目の回答結果を表 16～19 に示した。「ややそう思う」「非常にそう思う」のいずれかに回答した割合はすべての質問で 75% を超え、評定平均値も最も低いもので「東北福祉大学を勧めたいと思うか」の項目の 3.10 であった。回答者においては、卒業後も東北福祉大学に対して良い評価がなされる傾向にあったと言えよう。

表 16 東北福祉大学を勧めたいと思うか？

	度数	%
1. まったくそう思わない	0	0.0
2. あまりそう思わない	14	19.7
3. ややそう思う	36	50.7
4. 非常にそう思う	21	29.6
合計	71	100.0

平均:3.10 標準偏差:0.70

表 17 東北福祉大学に在学したことを誇りに思うか？

	度数	%
1. まったくそう思わない	1	1.4
2. あまりそう思わない	13	18.3
3. ややそう思う	34	47.9
4. 非常にそう思う	23	32.4
合計	71	100.0

平均:3.11 標準偏差:0.75

表 18 東北福祉大学で得た知識や経験は、その後の社会生活や職業生活に役立っているか？

	度数	%
1. まったくそう思わない	0	0.0
2. あまりそう思わない	5	7
3. ややそう思う	34	47.9
4. 非常にそう思う	32	45.1
合計	71	100.0

平均:3.38 標準偏差:0.62

表 19 東北福祉大学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活や職業生活に役立っているか？

	度数	%
1. まったくそう思わない	3	4.2
2. あまりそう思わない	12	16.9
3. ややそう思う	30	42.3
4. 非常にそう思う	26	36.6
合計	71	100.0

平均:3.11 標準偏差:0.84

### 〈調査時の仕事の充実感及び在学中の学び・成果との関連〉

「調査時の仕事の充実感」及び「在学中の学び・成果」と「調査時の大学に対する評価」

との関連を検討するために、各評定値について相関分析を行った。表 20 にそれぞれの相関係数の値を示した。その結果、すべての組み合わせで統計的に有意な相関が明らかとなった。調査時の仕事の充実感が高い人ほど大学の評価も高い傾向にあることが明らかとなった。さらに、在学中の学びに対する満足度が高いほど、また、在学中の学びや経験を通して成長を感じているほど、調査時の大学に対する評価が高い傾向にあることが明らかとなった。

表 20 「在学中の学び・成果」と「調査時の大学に対する評価との関連」

	東北福祉大学を勧めたいと思うか？	在学したことを誇りに思うか？	知識や経験は、その後の人生に役立っているか？	人とのつながりは、その後の人生に役立っているか？
調査時の仕事の充実感	.312*	.345**	.529**	.265*
大学での学びに対する満足度	.680**	.625**	.748**	.558**
在学中の学びや経験を通じた成長	.570**	.555**	.757**	.522**
キャリア教育の修得度	.372**	.407**	.571**	.363**

\*\*: $p < .01$  \*: $p < .05$

## 5. 現在の社会生活や職業生活をふまえた大学での学び

本調査では、在学中の学びや経験について表 21 に示す 28 の項目を示し、現在の社会生活や職業生活をふまえ「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られ良かった」と思うもの、さらには、「足りなかった」「もっと力を入れてほしかった」と思うものを選択するよう求めた。その結果を表 21 に示した。(表 21 で**太字**となっているものは、選択数が 20% を超えるもの)

「役立っている」「経験・学習の機会が得られ良かった」内容として挙げられた項目の数に着目すると、平均 6.93 個(SD:5.16,range:1-28)であった。最も多く挙げられた項目は「資格・免許の取得」(74.6%)であり、次いで「専門的な知識と技能(技術)の修得」(62.0%)、「多くの仲間との出会いの経験」(54.9%)、「傾聴および考え・気持ちを伝えるコミュニケーション力の修得」(46.5%)が多く挙げられた。

一方、「足りなかった」「大学からの支援としてもっと力を入れてほしかった」内容として挙げられた項目の数は、平均 3.70 個(SD:3.37,range:0-27)であった。挙げられた項目で最も多かったのは、「実践的な知識と技能(技術)の修得」(39.4%)であり、次いで「グローバルな視点から考える力の修得」(36.6%)、「語学力の修得」(33.8%)であった。これらのうち、「実践的な知識と技能(技術)の修得」については「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られた良かった」内容としても比較的多く選ばれており、回答者によって評価が分かれる内容であったと考えられる。一方、「グローバルな視点から考える力の修得」「語学力の修得」は「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られてよかった」内容として挙げている者比較的少なかった。以上より国際社会に向けた人材の育成が今後の課題として求められることが示唆されたと言えよう。

表 21 現在の社会生活や職業生活をふまえた大学での学び

	1)「役立っている」 「経験や学習・修得の機会 が得られ良かった」			2)「足りなかった」 「大学からの支援としてもっと 力を入れてほしかった」		
	人数	%	順位	人数	%	順位
1 広く深い教養	<b>16</b>	<b>22.5</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>21.1</b>	<b>5</b>
2 専門的知識	<b>44</b>	<b>62.0</b>	<b>2</b>	<b>18</b>	<b>25.4</b>	<b>4</b>
3 実践的知識	<b>27</b>	<b>38.0</b>	<b>6</b>	<b>28</b>	<b>39.4</b>	<b>1</b>
4 語学力	3	4.2	28	<b>24</b>	<b>33.8</b>	<b>3</b>
5 コミュニケーション能力	<b>33</b>	<b>46.5</b>	<b>4</b>	4	5.6	27
6 図表の活用	11	15.5	17	6	8.5	19
7 ICTの活用	9	12.7	19	8	11.3	13
8 多角的思考・思考の柔軟性	<b>17</b>	<b>23.9</b>	<b>11</b>	8	11.3	12
9 問題解決力	<b>17</b>	<b>23.9</b>	<b>12</b>	10	14.1	9
10 グローバルな視点	7	9.9	22	<b>26</b>	<b>36.6</b>	<b>2</b>
11 地域の視点	12	16.9	15	5	7	22
12 自己管理能力	10	14.1	18	11	15.5	7
13 社会生活・人間関係スキル	<b>21</b>	<b>29.6</b>	<b>9</b>	7	9.9	15
14 資格・免許	<b>53</b>	<b>74.6</b>	<b>1</b>	10	14.1	8
15 キャリア支援活動への参加	9	12.7	20	6	8.5	18
16 体験型キャリア形成	5	7	26	8	11.3	11
17 初年次からのキャリア形成	6	8.5	24	4	5.6	26
18 多様なキャリア形成	4	5.6	27	6	8.5	17
19 社会との接点(アルバイトやインターン シップなど)	22	31	8	7	9.9	14
20 仲間との出会い	<b>39</b>	<b>54.9</b>	<b>3</b>	4	5.6	25
21 実践の場との接点	<b>24</b>	<b>33.8</b>	<b>7</b>	4	5.6	24
22 地域貢献活動	<b>19</b>	<b>26.8</b>	<b>10</b>	3	4.2	28
23 異文化交流	7	9.9	23	13	18.3	6
24 協働的問題解決	9	12.7	21	4	5.6	23
25 学業以外の成長	6	8.5	25	6	8.5	16
26 感性の涵養	12	16.9	16	5	7	21
27 余暇	<b>29</b>	<b>40.8</b>	<b>5</b>	5	7	20
28 自己探求	<b>16</b>	<b>22.5</b>	<b>14</b>	8	11.3	10

太字は選択された割合が20%を超えるもの

〈「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られ良かった」の選択と調査時の仕事の充実感との関連〉

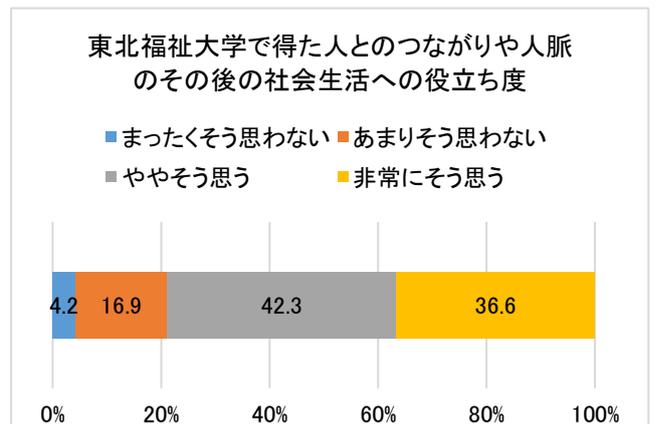
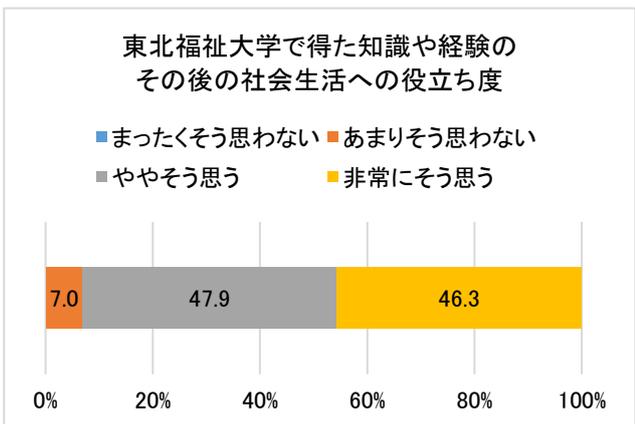
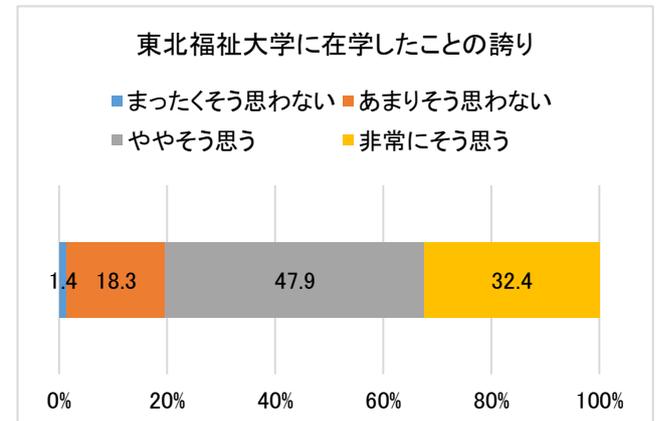
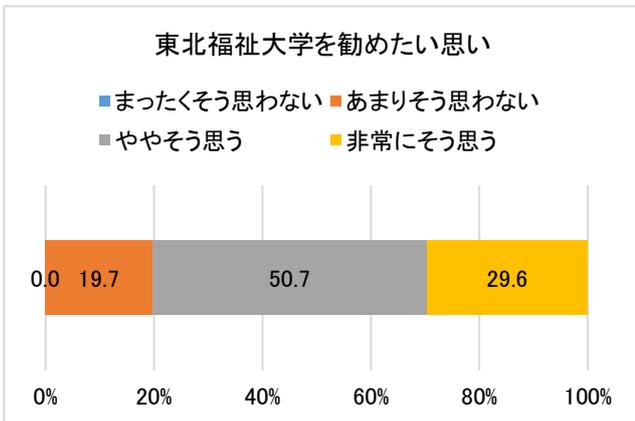
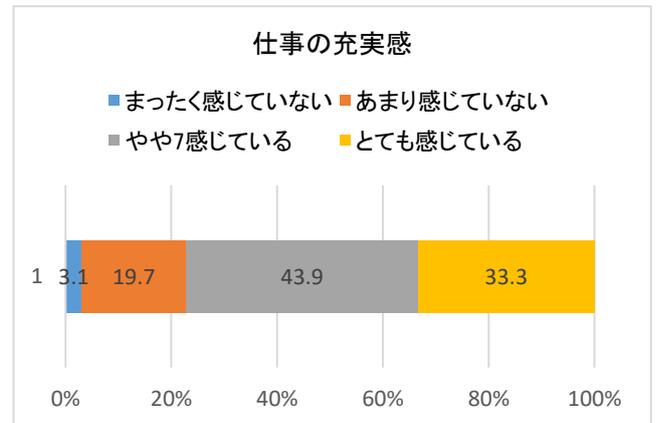
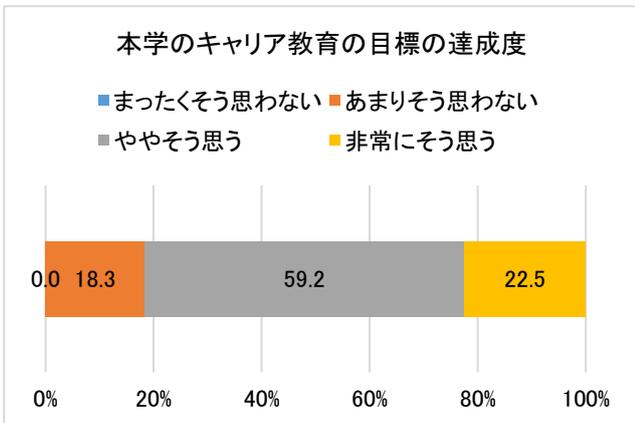
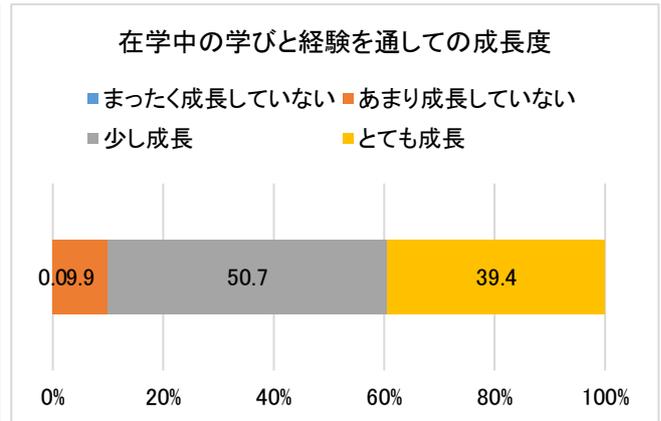
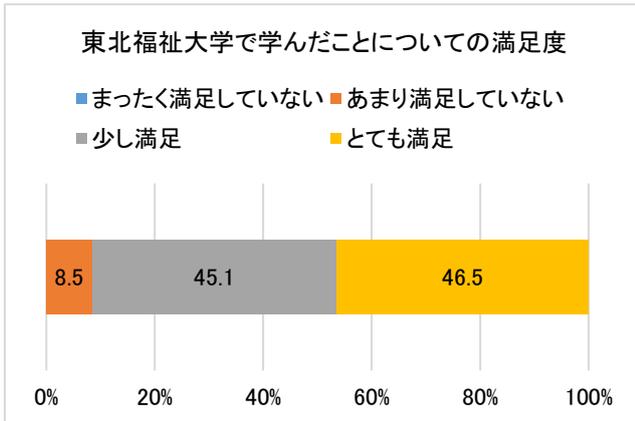
各項目それぞれについて「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られてよかった」内容として選択した者と選択しなかった者の充実感の評定値の平均を表 22 に示した。平

均値の差について統計的な分析（t検定）を行ったところ、「専門的な知識と技能（技術）の修得」「傾聴および考え・気持ちを伝えるコミュニケーション力の修得」「物事を多角的、論理的、柔軟に考え、表現する力の修得」「問題を発見し、情報を集め、考える力の修得」「グローバルな視点から考える力の修得」「地域の視点から考える力の修得」「キャリア・就職関連の各種対策講座・セミナーへの参加」「就業力や社会人基礎力を培う初年次からのキャリア形成」「ボランティア活動や地域貢献活動など社会に役立つ活動への参加」「国際交流など多様な文化や異文化の人々と接する経験」「美しいものや善いもの、人の気持ちを感じとる感性を養うこと」においてこれらの項目を選択した者の方が選択していないものに比べて現在の仕事に対してより充実感を感じている傾向が明らかになった。

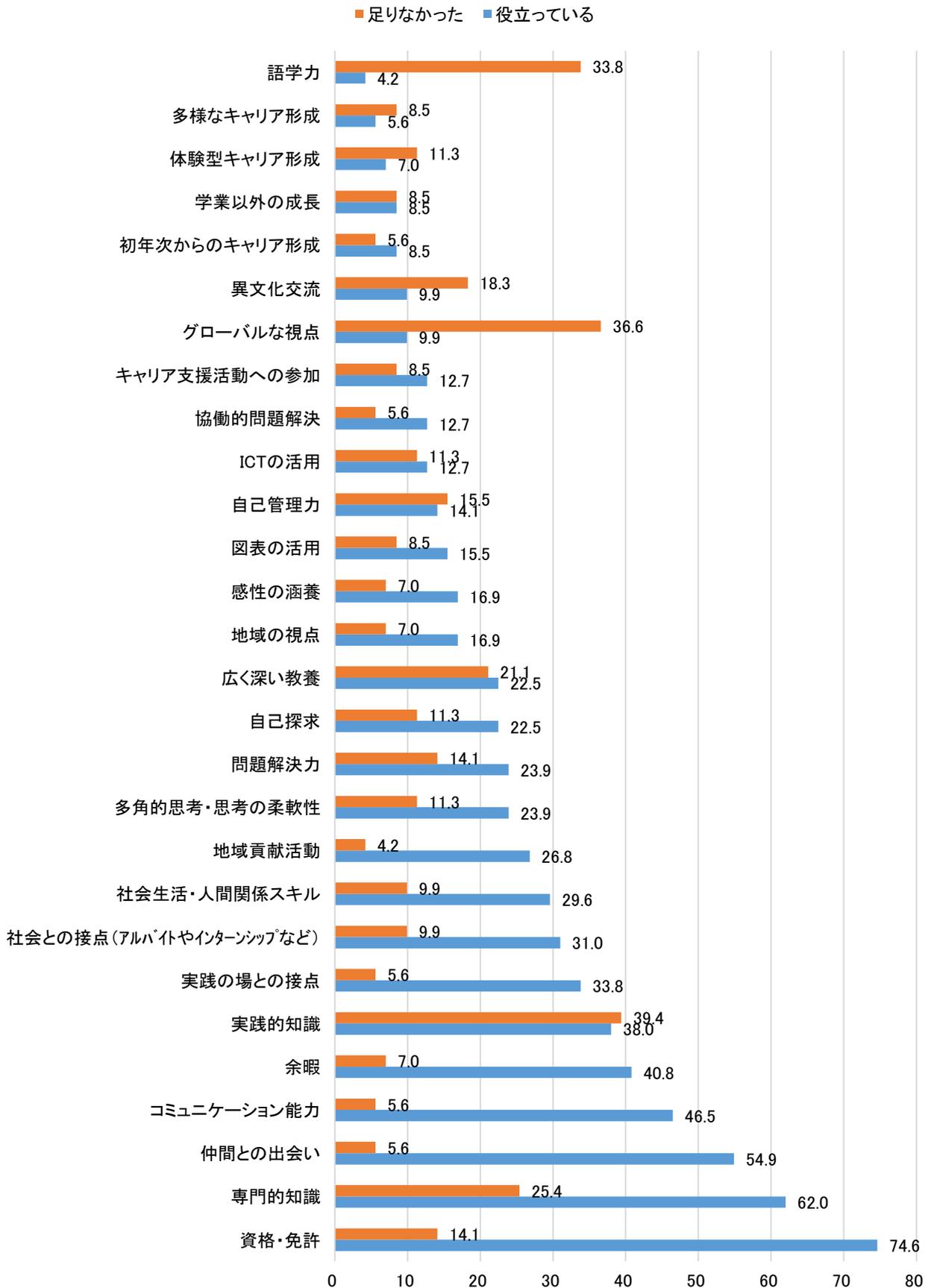
表 22 「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られ良かった」の選択と仕事の充実感との関連

	選択			非選択			統計結果
	人数	平均	SD	人数	平均	SD	
1 広く深い教養	13	3.38	0.77	53	3.00	0.81	
<b>2 専門的知識</b>	<b>41</b>	<b>3.22</b>	<b>0.82</b>	<b>25</b>	<b>2.84</b>	<b>0.75</b>	<b>t(64)=1.88,p&lt;.10</b>
3 実践的知識	24	3.25	0.79	42	2.98	0.81	
4 語学力	2	3.50	0.71	64	3.06	0.81	
<b>5 コミュニケーション能力</b>	<b>31</b>	<b>3.29</b>	<b>0.64</b>	<b>35</b>	<b>2.89</b>	<b>0.90</b>	<b>t(64)=.208,p&lt;.05</b>
6 図表の活用	11	3.36	0.67	55	3.02	0.83	
7 ICTの活用	9	3.44	0.73	57	3.02	0.81	
<b>8 多角的思考・思考の柔軟性</b>	<b>17</b>	<b>3.59</b>	<b>0.51</b>	<b>49</b>	<b>2.90</b>	<b>0.82</b>	<b>t(64)=3.24,p&lt;.01</b>
<b>9 問題解決力</b>	<b>15</b>	<b>3.60</b>	<b>0.63</b>	<b>51</b>	<b>2.92</b>	<b>0.80</b>	<b>t(64)=3.03,p&lt;.01</b>
<b>10 グローバルな視点</b>	<b>6</b>	<b>4.00</b>	<b>0.00</b>	<b>60</b>	<b>2.98</b>	<b>0.79</b>	<b>t(64)=3.12,p&lt;.01</b>
<b>11 地域の視点</b>	<b>10</b>	<b>3.60</b>	<b>0.52</b>	<b>56</b>	<b>2.98</b>	<b>0.82</b>	<b>t(64)=2.29,p&lt;.05</b>
12 自己管理能力	9	3.44	0.53	57	3.02	0.83	
13 社会生活・人間関係スキル	18	3.39	0.70	48	2.96	0.82	
14 資格・免許	49	3.08	0.84	17	3.06	0.75	
<b>15 キャリア支援活動への参加</b>	<b>8</b>	<b>3.63</b>	<b>0.74</b>	<b>58</b>	<b>3.00</b>	<b>0.79</b>	<b>t(64)=2.10,p&lt;.05</b>
16 体験型キャリア形成	5	3.20	0.84	61	3.07	0.81	
<b>17 初年次からのキャリア形成</b>	<b>6</b>	<b>3.67</b>	<b>0.52</b>	<b>60</b>	<b>3.02</b>	<b>0.81</b>	<b>t(64)=1.91,p&lt;.10</b>
18 多様なキャリア形成	4	3.75	0.50	62	3.03	0.81	
19 社会との接点（アルバイトやインターンシップなど）	21	3.24	0.70	45	3.00	0.85	
20 仲間との出会い	35	3.20	0.80	31	2.94	0.81	
21 実践の場との接点	22	3.27	0.83	44	2.98	0.79	
<b>22 地域貢献活動</b>	<b>18</b>	<b>3.61</b>	<b>0.50</b>	<b>48</b>	<b>2.88</b>	<b>0.82</b>	<b>t(64)=3.58,p&lt;.01</b>
<b>23 異文化交流</b>	<b>4</b>	<b>4.00</b>	<b>0.00</b>	<b>62</b>	<b>3.02</b>	<b>0.80</b>	<b>t(64)=2.44,p&lt;.05</b>
24 協働的問題解決	8	3.50	0.76	58	3.02	0.81	
25 学業以外の成長	4	3.75	0.50	62	3.03	0.81	
<b>26 感性の涵養</b>	<b>11</b>	<b>3.64</b>	<b>0.50</b>	<b>55</b>	<b>2.96</b>	<b>0.82</b>	<b>t(64)=2.63,p&lt;.05</b>
27 余暇	27	3.15	0.77	39	3.03	0.84	
28 自己探求	19	3.11	0.74	47	3.06	0.84	

資料（結果の図）



## 現在の社会生活や職業生活をふまえた 大学での学び



## 卒業生アンケート（卒後3年以内対象）の項目

### I. 基本属性

項目ごとに当てはまるものにチェック（●）を付けてください。

- 1) 性別 男 女
- 2) 入学年度 2009年度以前 2010年度 2011年度 2012年度 2013年度
- 3) 卒業後の年数 1年未満 1年以上2年未満 2年以上3年未満
- 3) 最終年度に所属していた学科  
社会福祉学科 社会教育学科 福祉心理学科  
産業福祉学科・産業福祉マネジメント学科  
情報福祉学科・情報福祉マネジメント学科  
子ども教育学科 保健看護学科 リハビリテーション学科 医療経営管理学科
- 5) 現在の職業等  
社会福祉施設 保健医療 公務員・団体 教員 企業 その他（自営など） 専業主婦  
学校等在学中 求職活動中 その他（病気療養中、就職意志なしなど）
- 1) 社会福祉施設の方は、その種別  
老人福祉（保健）施設 障害者（児）支援施設 保育所・保育園  
保育所・保育園以外の児童福祉施設 その他
- 2) 企業の方は、その職種  
事務職 販売職 営業職 技術職 現業職 マーケティング・企画職 管理職 その他
- 3) 現在、職業についている方は、その形態  
正規 非正規
- 4) 卒業後、就職した方は、離職経験  
なし 1回 2回 3回以上
- 5) 現在の仕事についてどの程度充実感を感じながら働いていますか  
とても感じている やや感じている あまり感じていない まったく感じていない  
・充実感を考える際には職務・業務内容・給与条件・労働環境等様々な側面で考えることができると思いますが、今回はそれらを総合した、総括的な充実感としてお考え下さい。

### II. 在学中の経験について

東北福祉大学での経験についてお聞きします。在学中を振り返って、次の経験をしましたか？ 当てはまるものにチェック（●）を付けてください。

- 1) 体育会の団体への所属の経験  
あり なし
- 2) 文化会/同好会/大学指定の団体への所属の経験  
あり なし
- 3) ボランティア活動の経験  
あり なし
- 4) 海外留学・研修（交換留学、短期研修プログラムなど）の経験  
あり なし

- 5) 国内での国際交流（キャンパス内、地域での活動など）の経験  
あり なし
- 6) インターンシップ（学生が在学中に行う企業等における就業体験）の経験  
あり なし
- 7) アルバイトの経験  
あり なし
- 8) 「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」のいずれかの履修  
あり なし
- 9) 各種学外実習の経験  
あり なし
- 10) 在学中に大学での学習を通して取得した資格・免許  
あり なし

### Ⅲ. 在学中の学びと経験について

東北福祉大学での学びと経験についてお聞きします。在学中を振り返って、次の各項目について、もっとも当てはまるものにチェック（●）を付けてください。

- 1) 東北福祉大学で学んだことについてどの程度満足ですか？  
とても満足 少し満足 あまり満足していない まったく満足していない
- 2) 東北福祉大学に在学中の学びと経験を通してどの程度成長したと思いますか？  
とても成長 少し成長 あまり成長していない まったく成長していない
- 3) 本学のキャリア教育の目標「自らかかわる（主体性）、自ら考える・気づく（課題発見能力など）、自らアクションを起こす（実行力）」がどの程度身に付いたと思いますか？  
とても身に付いた 少し身に付いた あまり身に付いていない まったく身に付いていない

### Ⅳ. 大学に対する思いについて

東北福祉大学に対するあなたの思いについてお聞きします。次の各項目についてもっとも当てはまるものにチェック（●）を付けてください。

- 1) 身近に、私立大学への進学を希望する者がいる場合、東北福祉大学を勧めたいと思いますか？  
とてもそう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない
- 2) 東北福祉大学に在学したことを誇りに思いますか？  
とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない
- 3) 大学での学習や経験は、その後の社会生活や職業生活に役立っていますか？  
とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない
- 4) 大学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活や職業生活に役立っていますか？  
とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない

## V. 大学での学びと経験に関する改善・要望について

東北福祉大学を卒業した後の社会生活や職業生活をふり返ったとき、在学中の様々な経験・学習の中で

- 1) 「役立っている」「経験・学習の機会が得られて良かった」と思うこと
  - 2) 「足りなかった」「大学からの支援としてもっと力を入れてほしかった」と思うこと
- について、次の各項目のうち当てはまるものすべてにチェック（✓）を付けてください。

広く深い教養の修得

専門的な知識や技能（技術）の修得

実践的な知識や技能（技術）の修得

語学力の修得

傾聴および考え・気持ちを伝えるコミュニケーション力の修得

図表を活用して理解し、考え、表現する力の修得

情報通信技術（ICT）を活用して情報を集め判断する力の修得

物事を多角的、論理的、柔軟に考え、表現する力の修得

問題を発見し、情報を集め、考える力の修得

グローバルな視点から考える力の修得

地域の視点から考える力の修得

健康管理やストレスへの対処、意欲・やる気の維持などの自己管理の修得

社会生活や人間関係に必要な規範、ルール、配慮の修得

資格・免許の取得

キャリア・就職関連の各種対策講座・セミナーへの参加

卒業生懇談・現場見学などの体験型のキャリア形成

就業力や社会人基礎力を培う初年次からのキャリア形成

女性のライフプランニングなど多様なキャリア形成

アルバイトやインターンシップなど社会と接する経験

多くの仲間との出会いの経験

施設実習や各種実習など、実践の場との接点の経験

ボランティア活動や地域貢献活動など、社会に役立つ経験

国際交流など多様な文化や異文化の人々との接点の経験

問題解決や目標達成にチームで協働して取り組む経験

課外活動など学業以外で自分を成長させる経験

美しいものや善いもの、人の気持ちを感じとる感性を養うこと

自分の好きな活動に時間を割くこと

自分自身がどういう人間なのかを考えること

具体的な改善や要望のご意見がありましたら、自由にお書きください。

卒業生への支援（卒業生向けサービスを含む）について改善や要望のご意見がありましたら、自由にお書きください。